

えんぱーく（塩尻市市民交流センター）

正会員 柳 澤 潤 君

2006年に長野県塩尻市の大門地区の再開発事業として、市民交流センターと住居施設の複合施設の公募型プロポーザルが行われた。大門地区は市の中心部にありながら商店街の機能が衰退化している地区であり、再開発事業は人口7万弱の塩尻市にとっては街の活性化にとって極めて重要な事業であった。選定された設計者は街と市民を繋ぐ建築として「壁柱」の新しい構造システムを軸に空間を構成する案を提案した。再開発事業はその後、住居系との複合から民間オフィス、商工会議所等との複合へと大きく変更されたが、設計者の提案したシステムはプロポーザル時のコンセプトを崩さずに変更に柔軟に対応可能なものであった。

建物は大きく図書館、市民交流センター、子育て支援センター、役所分室およびその付帯スペースと民間事務所、商工会議所からなる。市民サービスと街の活性化が第一の目的であるが、これらは単一の活動ではなく様々な活動形態がある。それぞれに合った空間が求められると同時に相互のつながりや変化に対応した空間システムが必要であり、これを解決し新たな建築空間を生み出すアイデアが設計者の「壁柱」のシステムである。

プレキャストコンクリートと鋼板の複合構造体である「壁柱」は建物を支持する主構造部材であると同時に空間を限定化して分節する役割を持つが、壁とは異なり閉じつつ開くという特性を有し、この建物の機能空間と良くマッチすると同時に新たな建築空間を創出している。

市民サービスの中で最も利用されやすい図書館機能は1階に集められ、外部にも開放的で親しみやすく街とのつながりも強く意識されている。4つの吹き抜けコートを通じて上下階の空間が一体的につながること、館内利用者が階数を問わずいたる場所で相互に関係し合うことができる。機能を限定されないオープンスペースが豊富に配置されているが、空間の区切りとしての壁と限定されないオープンな空間は「壁柱」の特性を十分生かしたものである。

鋼板とプレキャストコンクリートの壁柱はこれまでにない斬新な構造技術提案であり、現実的・技術的な問題を乗り越えてプロポーザル時の提案がピュアーに実現できていることは特筆されるべきである。同時に4階を人工地盤とした構造計画や免震構造の採用により市民に安心して利用できる環境を形成していることなど、構造技術の全般において極めて高いレベルを有している。対する施工者側の努力と苦勞そして創意も大きかったであろうことは容易に想像でき、それはできあがった建物から直接伝わってくる。

本計画はプロセスにおいても市民の積極的で継続的な関わりの中でプログラムが作られていることや、発注者側の並々ならぬ熱意と取り組みが結果としての市民利用に大きくつながっていることなど、関係者の良好な関係で生まれている。

以上のように本建物は計画、技術、オリジナリティ、社会性等様々な点で特筆すべき建築であると評価される。

よって、ここに日本建築学会作品選奨を贈るものである。